

# 結城農業かわら版



第105号

発行 結城地域農業改良普及センター

平成30年9月20日

TEL:0296-48-0184

FAX:0296-48-2682

結城地域農業改良普及センターHPへアクセス↑

## 結城地域農業三士情報交換会が開催されました！

8月10日(金)、地域農業のけん引役として茨城県知事より任命されている県農業三士と関係機関、合計55名の参加による情報交換会が八千代町のビ・アーンジュYUKIYAで開催されました。

今年度新たに任命された4名と退任された4名の紹介の後、八千代町古谷光義農業経営士より「おいしいお米の差別化に向けて～ICTを利用した今後の米づくり～」と題して、クボタ農機のKSAS(ケイサス)を導入した圃場・生産管理について講演をしていただきました。古谷氏の全国をリードする先進的な取り組みを、参加者の皆さんは大変熱心に聞き入っていました。



古谷農業経営士の講演



新任の農業経営士と女性農業士(左より、倉持氏、吉原氏、遠井氏、北嶋氏)

次に、県西農業共済組合からも平成31年1月より始まる「収入保険制度について」の情報提供をしていただきました。講演会後には、全員参加による情報交換会が行われ、産地振興や担い手育成などについて熱心な意見が交換され、参加者からは今後の活動に大変参考となったとの意見を伺いました。

※農業三士とは、青年農業士・農業経営士・女性農業士の総称です。

## 第4回県西広域アグリ講座を開催しました！

7月31日(火)結城普及センターをはじめ県西3普及センターは、地域農業を担う若い農業者32名を対象に県西広域アグリ講座「先進農家研修」を開催しました。

今回の講座は、全国トップの夏ネギ産地である坂東市に出向き、産地を代表する農業経営士さんから経営概況や栽培技術を学びました。管理の行き届いた見事なネギほ場を見学しながらの研修は、参加者の質問が止まらなくなるほど好評でした。



先進農家研修(ネギ調整場見学)



先進農家研修(ネギほ場見学)

また、出荷調整の実際も同産地の女性農業士さんから研修させていただきました。特に残渣処理などのきめ細やかな出荷調整は、参加者の多くが熱心にノートへ記録するなど、印象が強かったようです。

参加者からは、「実際にネギ大産地のほ場を見学し、トップ農家の話を聞き、大変有意義な研修であった」との感想が多く聞かれました。今後も結城普及センターでは、生産技術や経営感覚の向上につながるアグリ講座を開催していきます。

## 農家若手女性向け料理教室を開催します！

10月16日(火)に八千代町農村環境改善センターで、結城地域女性農業士会と女性農業者グループ「グリーンSun woman♥」共催の農家若手女性向け料理教室を開催します。地域の野菜を使った調理と、食事をしながらの情報交換会を予定しています(お子様連れ可)。ご興味のある方は、結城普及センター(担当:中村)まで。

## 露地野菜台風対策

本年は、9月10日現在までに22個もの台風が発生しています。今回は、露地野菜における台風対策について紹介します。

- ・定植後の作物は、寒冷紗等のべた掛け資材で被覆しましょう。べた掛け資材は、すそを土の中に埋める又はアンカー等の使用によりしっかり固定することが重要です。
- ・幼苗期の野菜やネギ類は台風前に土寄せを行い、株の揺れを少なくしましょう。
- ・台風通過後は、べた掛け資材をすぐに剥がしましょう。病害虫が発生しやすくなるため、防除を徹底しましょう！

## レタス斑点細菌病

10月～12月に多発するレタス斑点細菌病。初期症状は、淡い黄色の小さな斑点が葉や茎に現れます。病斑は、葉脈に沿って広がり、褐色に変化していきます。病気が蔓延してしまうと、葉が腐敗し、最悪の場合は株が枯死してしまいます。

多湿な圃場環境は、斑点細菌病の発生を助長するため、排水対策を心がけましょう。また、トンネル栽培では内部が過湿にならないよう注意しましょう。発病した株の残渣を土中に残すと、菌の越冬場所となるので、必ずほ場外に持出して処分しましょう！



発病株の様子

- ① 下位葉の葉縁部に黒褐色病斑を生ずる
  - ② 斑は融合して大型病斑になる
  - ③ 葉縁部から葉基部へくさび型に進展する
- 写真提供：埼玉の農作物病害虫写真集より

## 雑草イネを見ませんでしたか？

雑草イネが管内でも発生しています。収穫した玄米の中に、赤色や褐色の粒が混じっていないか？ 栽培している品種と特徴が異なるイネを水田で見かけなかったでしょうか？ 早期発見と速やかな対応が大切です。

### 1 耕起前の除草剤処理（5月下旬に移植の場合）

水稻耕起前に使用できる非選択性除草剤は高い効果があります。雑草イネが生え揃った5月中下旬の耕起前処理が効果的です。

### 2 水田除草剤による体系防除（5月中旬までの移植の場合）

雑草イネに有効な薬剤でも、その効果は出芽前～出芽直後までに限定されます。1葉期以降は薬効が殆どありません。除草剤の処理間隔は7～10日とし、以下の防除体系を3ヶ年間実施します。5月中旬までの移植時期では、3回防除（初期剤＋一発処理剤＋中期剤）が必要です。

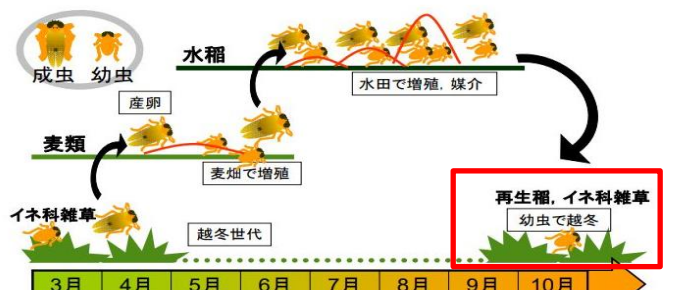
※耕種的防除法もありますが、イネ縞葉枯病被害を拡大させる恐れがあるので、詳細は普及センターに問い合せ下さい。

## イネ縞葉枯れ病対策！

縞葉枯病のウイルスを媒介するヒメトビウンカは、9月下旬からイネ科雑草・ひこばえ内で越冬します。越冬した幼虫は、ウイルスを保有しているため、翌年の感染源となってしまいます。越冬場所を無くすために、秋耕・畦畔の除草を行いましょう。

### ウイルス媒介の仕組み

- ウイルスを持った虫（保毒虫）がイネを吸汁するとイネがウイルスに感染し、発病する
- ウイルスを持たない虫が発病株を吸汁するとウイルスを獲得して保毒虫になる
- ウイルスは親から子へ引き継がれ、保毒虫から生まれた子の約9割は保毒虫になる



雄成虫



雌成虫



分げつ期の病徴